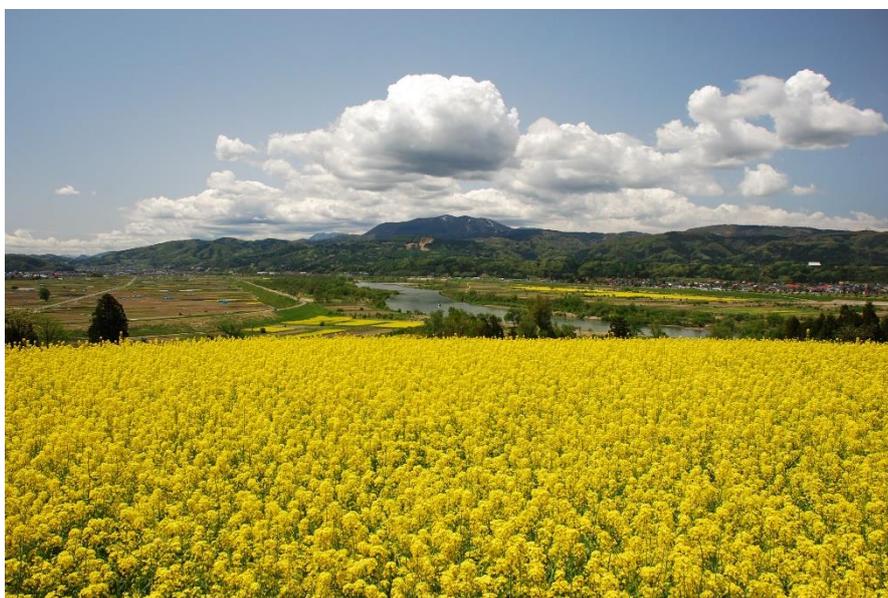




飯山市立学校業務改善指針



菜の花公園

令和7年(2025年)3月

飯山市教育委員会

I 目的

教職員一人ひとりが心身の健康を保ちながら、生き生きとやりがいを感じて豊かな教職生活を送ることができ、学校内外での学びや自己研鑽、豊かな生活経験を通じて、教職員としての専門性や創造性を高め、子どもたちへの質の高い教育を実現していきます。

また、すべての教職員の在校等時間を客観的な方法により年間を通して把握し、時間外在校等時間の縮減（原則年360時間以内及び月45時間以内）のための取組を推進していきます。

II 現状と課題

市教育委員会では、平成30年から「飯山市立学校業務改善指針」を策定し、学校現場における業務改善の取組を推進することで、学びの時間を確保し教職員時間外勤務時間の縮減を図ってきました。

その結果、令和4年、5年の実績では、評価指標（KPI）に対する目標値を上回り、長時間勤務は減少しつつありますが、令和6年度当初（4・5月）の1ヶ月一人あたりの時間外勤務時間平均は4.9時間、最も多い学校の平均は6.6時間となっています。（持ち帰り仕事は含まない）

依然として長時間勤務の教職員もおり、新学習指導要領の着実な実施や、多様な学びへの対応など、学校教育の更なる充実のために、コロナ禍で進めた効果的な取組を継続して新しい働き方として定着させ、ICTを活用した業務の効率化や、部活動改革を進めるなど、取り組みを加速させて行く必要があります。

こうした状況を踏まえ、教職員の働き方や学校の業務を見直し、働きやすい良好な職場環境づくりに取り組むことにより、教職員の負担の軽減を図り、限られた時間の中で教職員が健康でいきいきと働くことができ、子どもたち一人一人としっかり向き合うことができるよう、学校現場と教育委員会が一体となって「教職員の働き方改革」を進めるため、下記のとおり本指針を改定します。

III 具体的な取り組み

- 1 「勤務時間」を考えた働き方を進める。
 - (1) 授業準備を効率的にするために、教員が教材等を開発、共有できるシステムを構築し、継続して質の高い授業が行える環境を整えます。
 - (2) 行事等の精選や日常業務の見直しを促すとともに、好事例を周知し効果的な取組を広げていきます。
 - (3) 適正な勤務時間を把握するため、校務支援システムの出退勤管理機能を使用して、勤務時間の把握に努め、教職員自身の勤務時間に対する意識を高めるとともに、管理職及び教育委員会が年間を通して、全ての教職員の勤務時間を把握します。
- 2 学校・教員が担うべき業務を明確にし、業務仕分けを行う。
(学校における働き方改革に関する緊急対策(平成29年12月26日文科省)により仕分ける)
 - (1) 市の依頼する会議を見直します。

- (2) 学校、教員でなくてもできる学校業務については、コミュニティスクールを中心とした地域によるサポートと行政による人的・財政的な支援を含めたサポートを進めます。
- (3) 中学校部活動については、地域クラブ活動への移行推進、生徒・保護者・地域への理解を促す周知を行うとともに、部活動指導員の継続的な配置を進めます。
- (4) 学校徴収金業務の負担軽減に向けた取り組みを推進します。
- 3 学校・教員が担うべき業務の効率化を図るためシステム化・情報化を進める。
 - (1) 統合型校務支援システムの更なる利活用を進めます。
 - (2) 校務 DX 化等、教職員の業務効率・生産性を向上させる取り組みを推進します。
- 4 学校の業務環境の改善を進める。
 - (1) 長期休業期間中のテレワークや時間差勤務等、多様な働き方を研究します。
 - (2) 月 2 回以上の「教職員定時退勤日」を全ての学校で設定し、実施します。
 - (3) 学校の多忙化の要因となる業務を引き続き分析するとともに、国の定数改善などの動向を注視しつつ、人的支援等に取り組みます。
 - (4) 学校を取り巻く様々な問題等に対して専門的な観点に基づく支援や対応を図っていくために、学校以外の機関（スクール・ロイヤー、SC、SSW等）の活用を進めます。
 - (5) 不登校生のための教育支援センターの活用を進めます。
 - (6) 教職員が健康で生き生きとやりがいを感じながら豊かな教職生活を送ることができるよう、必要な調査を実施し、ワーク・エンゲイジメントの高い職場づくりを進めます。

IV 評価指標(KPI)

評価指標	測定方法
① 教職員の時間外勤務時間が年間を通して月 45 時間以下の教職員の割合 【実績 R4 : 60% R5 : 61%】	・年間を通した一人あたりの時間外勤務時間の平均が月 45 時間以下の教職員数で測定 【R9 最終目標値 : 100%】
② 教職員の最も忙しい時期における時間外勤務時間が 70 時間以下の教職員の割合 【実績 R4 : 小学校 56%、中学校 83%】 【実績 R5 : 小学校 76%、中学校 74%】	・教職員の最も忙しい時期における時間外勤務時間の平均が 70 時間以下の教職員数で測定 【R9 最終目標値 : 小学校 80%、中学校 80%】
③ 午後 8 時以降に勤務している教職員の割合 【実績 R4 : 4.3% R5 : 5.4%】	・午後 8 時以降に勤務している教職員数で測定 【R9 最終目標値 : 2%】
④ 専門性や創造性を高め、やりがいを感じていると実感できた教職員の割合 【実績 R4 : なし R5 : なし】	・教職員への意識調査で測定 【R9 最終目標値 : 80%】

※ 本指針に基づき令和 7 年度当初には各学校・教育委員会で実施計画を策定し、進めていくこととし、3 年程度で見直しを図っていく。